

具体的抽象論と抽象的具体論

RACCHO

March 31, 2012

1 具体的抽象論

具体的抽象論という言葉自体も抽象的ですが、具体的抽象論とは、抽象的なことがらを具体的に論じていくことをあらわしています。抽象的でないことがらでも、具体的に実例などを示して書いたほうが分かりやすいわけですが、特に抽象的なことがらは、実例などをたくさん示して具体的に書かなければ分からなくなってしまう訳です。抽象論を扱うのなら、いかに工夫して抽象的なことがらを具体化していくかが大事になってくる訳です。

たとえば、「精神が精神を蝕むのは精神が精神を精神と認識しなくなるからだ」という抽象論をただ言われても、理解はむずかしいでしょうね。そこに、次のような具体例を挿入してみます。「たとえば鬱病の患者さんは、自分のやる事なす事に対して悲観的になっている、要するにポジティブ精神がネガティブ精神によって蝕まれている状態だが、この原因は、ストレスなどの外因によって、ポジティブなことがらに触れる機会が少なくなる事で、ポジティブ精神を思い出せなくなり、ポジティブ精神がポジティブ精神と認識されなくなる事にある。」少しは分かるようになる気がします。

逆に、抽象論を進めていると、自分の想像に任せて書き走り、具体例を示していくことを忘れてしまう事が多々あります。気をつけるべきはそこです。

しかし、その具体例を書くのがあまり上手くいかないこともあります。上手く行っていない事に本人が気がついていない事も多いですが、そういった場合は、自分の論証が具体例を受け付けられないほどに矛盾しているか、その人の技量の問題です。となれば、逆に具体例を上手く書くことができたとき、要は具体的抽象論を書くことに成功したなら、あなたの論証がすばらしいということになるわけです。

2 抽象的具体論

抽象的具体論というのは、具体的なことがらを論じているはずなのに、いつの間にか抽象的な文章になってしまっている文章のことです。これはディベートで散見されます。きちんと実例を示せばいいのに、示さない。問題提起理由の説明だけで終わって「たとえばこういう風な事件が実際起こって…」とか、「このような統計があって、日本人の80%がこの意見に賛成している」とかいう説明が入らない。それではいかんなあと思う訳です。

書いていて気づいたのですが、この文章自体が、抽象的具体論に終始している気がします。これ以上書いても無駄な気がするので、ここでやめておこうと思います。